

大学の世界展開力強化事業(2018年度選定) 東京大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度2018年度・(タイプA))

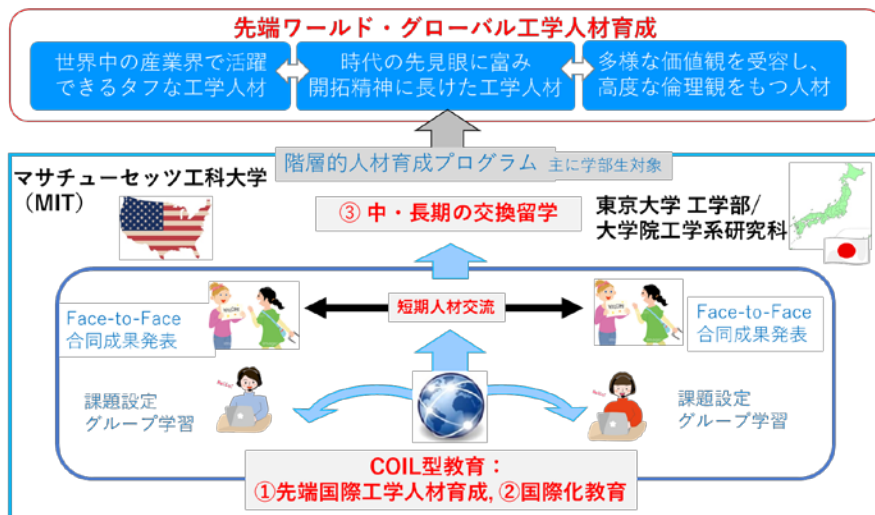
日米のCOIL型教育を活用した先端ワールド・グローバル工学人材養成プログラム

JA-COIL-WEng

【交流推進事業の概要】

米国マサチューセッツ工科大学(MIT)と、東京大学工学部で学ぶ学部学生を中心とし、Collaborative Online International Learning(COIL)を活用した課題調査型の講義、Face-to-Faceの短期滞在の学生間交流を実施する。

① COIL型教育:先端国際工学人材育成, ② COIL型教育:国際化教育、③中・長期の交換留学から構成される階層的プログラムである。



【交流プログラムの概要】

①COIL型教育:先端国際工学人材育成:学部2-3年生を対象とし、数人からなる日米学生のグループ毎に、工学の将来有望な技術について調査する課題を与え、学生間でスカイプ等を介して議論するCOIL型教育を取り入れ、調査結果をまとめて相手国を訪問し、学生シンポジウムを実施し発表する。東大の学生はMITの講義を、MITの学生は東大の講義をインターネットやビデオにて聴講する。

②COIL型教育:国際化教育:相手国の文化を知り、多様な価値観を受容し国際社会での高い倫理観を身につけるため、東大学生とMIT学生は、それぞれの持つ言語資源を利用しながら、目標言語(英語・日本語)を学習する。学部生および大学院生を対象とし、講義は①と同様のCOIL型教育で、東大とMITの学生間でペアとなり共通の課題を取り上げ、スカイプを介して議論し、調査結果をプレゼンテーションとしてまとめる自由研究スタイルで実施し、相手国を訪問して学生間で文化交流を行う。

③ 交換留学:東大工学部の材料工学科、機械系学科、システム創成学科、MITのDept. of Materials Science and Engineering, Dept. of Mechanical Engineering, Dept. of Nuclear Science and Engineering がパートナー学科であり5名/年を派遣・受入する。

【本事業で養成する人材像】

世界中の産業界で活躍できるタフな工学人材、時代の先見眼に富み、開拓精神に長けた工学人材、多様な価値観を受容し、高度な倫理観をもつ人材(先端ワールド・グローバル工学人材)を育成する。

【本事業の特徴】

東大とMITの学生が協同で行う講義スタイルであり、相手国で開催されるシンポジウムや文化遺産/企業/研究室見学を通してFace-to-Faceで対話をする事で、学生間の交流の機会を増やすことができる。世界での活躍を志向した資質や能力の必要性を早くから学部学生に実感させ、留学意識を高めることができる。

【交流予定人数】

| | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 |
|----------------------------|------|------|------|------|------|
| 本事業におけるCOIL型教育の受講者数(日本人学生) | 35 | 55 | 60 | 70 | 70 |
| 本事業におけるCOIL型教育の受講者数(外国人学生) | 15 | 40 | 45 | 55 | 60 |
| 学生の派遣 | 20 | 35 | 40 | 50 | 55 |
| 学生の受入 | 15 | 40 | 40 | 55 | 55 |